食品ロス削減による影響に関する研究

要旨本文

食品ロスは、さまざまな問題を引き起こしているため、解決しなければならない。また、食品ロスは、SDGs の達成目標にも含まれており、地球全体で食品ロスに関する意識が高まり、日本でも食品ロスに関する法律が制定され、民間企業や地方公共団体などでも食品ロス削減に向けた動きが見られるようになった。

本研究では、食品ロスの解決策の一つに子ども食堂を取り挙げた。今の日本の現状を考えれば、今後も子ども食堂は必要な存在であると考えられる。子ども食堂で提供される食事には、フードバンクに集められた食材が使われていることが多く、子ども食堂は食品ロスがあってこそ成り立っていると言える。そのため、食品ロスが削減されれば、フードバンクに集まる食材が減少し、子ども食堂で提供する食事の栄養面の偏り、食材の安定的・定期的な供給ができなくなってしまうのではないかと考えた。そこで、筆者は子ども食堂の現状を知るために、東京都豊島区北大塚にある OOC 子ども食堂にヒアリング調査を実施した。

OOC 子ども食堂では、食材の安定供給を課題としていた。食材の安定供給に関しては、規格外野菜といった必然的な食品ロスを子ども食堂へ供給し、スーパーの総菜の売れ残りといった人為的に発生する食品ロスに関しては、削減し子ども食堂との連携は緩やかに解消されるべきだと考えた。

食品ロスの解決策の一つに、規格外野菜といった必然的な食品ロスを子ども食堂へ供給すると示したが、これを実現させるには農家の協力が必要不可欠である。したがって、農家と子ども食堂の連携については、今後の検討課題とする。